

令和 7 年度 定期作況報告

〈令和 7 年 7 月 20 日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

6 月下旬：平年と比較して平均気温は 3.2℃、最高気温は 3.9℃、最低気温は 2.5℃高かった。降水量は 50.5mm で平年の 89%、日照時間は 54.1 時間で同 112%だった。

7 月上旬：平年と比較して平均気温は 3.7℃、最高気温は 4.3℃、最低気温は 3.2℃高かった。降水量は 59.0mm で平年の 160%、日照時間は 57.5 時間で同 127%だった。

7 月中旬：平年と比較して平均気温は 1.5℃、最高気温は 2.6℃、最低気温は 1.4℃高かった。降水量は 4.5mm で平年の 21%、日照時間は 46.6 時間で同 108%だった。

以上、1 か月平均では、平年に比べ平均気温は 2.8℃、最高気温は 3.6℃、最低気温は 2.3℃高かった。降水量は 114.0mm で平年の 99%、日照時間は 158.2 時間で同 116%だった(表 1、図 1)。

表 1 気象表

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	21.4	18.2	3.2	23.3	19.6	3.7	22.9	21.4	1.5	22.5	19.7	2.8
最高気温(℃)	26.4	22.5	3.9	28.1	23.8	4.3	28.2	25.6	2.6	27.6	24.0	3.6
最低気温(℃)	17.2	14.7	2.5	19.5	16.3	3.2	19.5	18.1	1.4	18.7	16.4	2.3
降水量 (mm)	50.5	56.8	▲ 6.3	59.0	36.8	22.2	4.5	21.2	▲16.7	114.0	114.8	▲0.8
日照時間(hr)	54.1	48.5	5.6	57.5	45.2	12.3	46.6	43.0	3.6	158.2	136.7	21.5

注 1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前 10 か年の平均値である。
注 2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

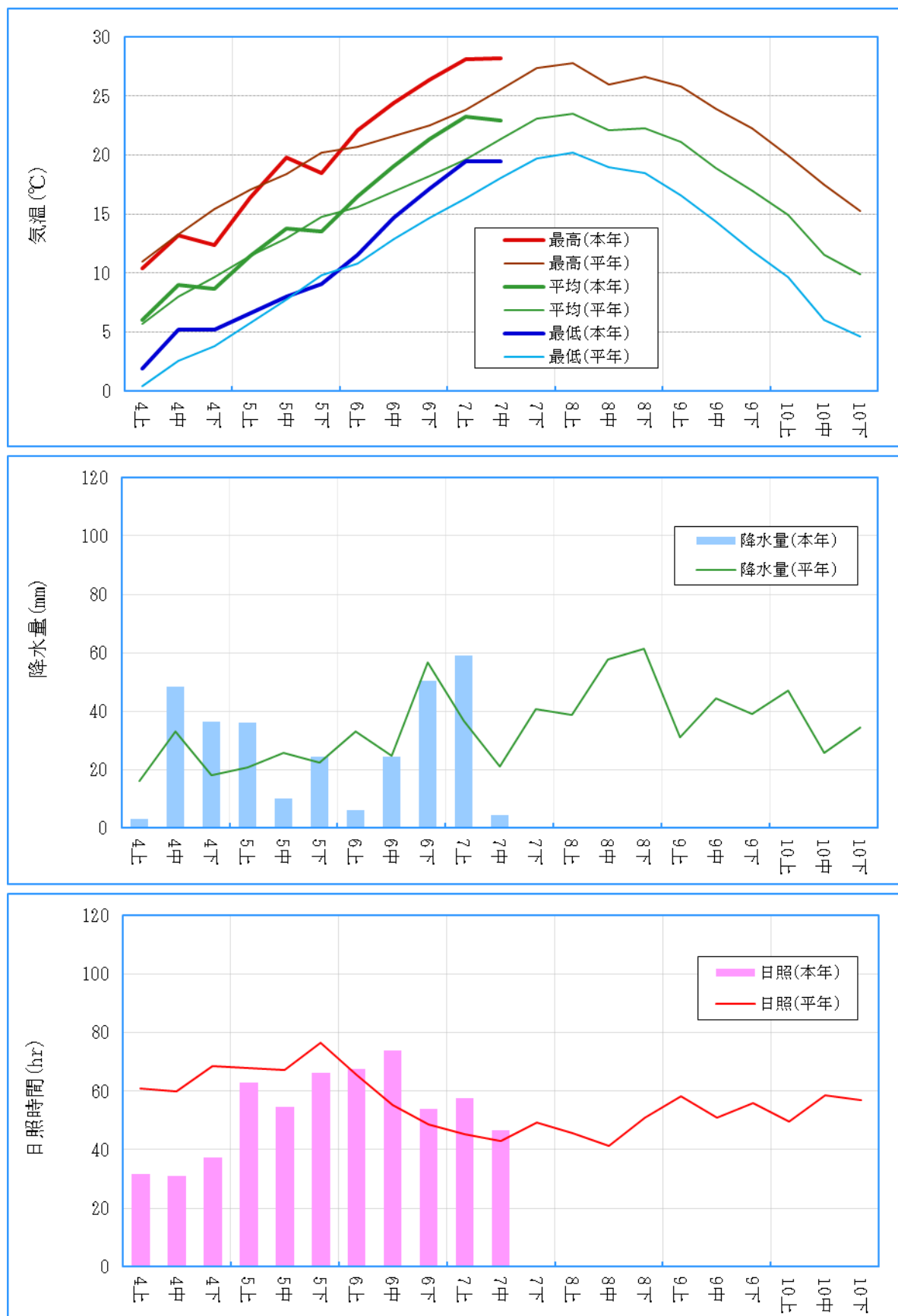


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和7年、北斗市)

2. 作況（水稻）

7月20日：やや不良

事由：6月下旬はかなり高温であったため、生育は進み、幼穂形成期は「ふっくりんこ」は平年より3日早く、「ななつぼし」は1日早かった。また幼穂形成期後も7月上旬、中旬ともにかなり高温であったため、生育はさらに進み、止葉期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに、平年より5日早かった。本年は既に出穂期に達し、「ふっくりんこ」は平年より9日早く、「ななつぼし」は8日早く、過去16年間で最も早い出穂期であった。葉数は平年より少なく、草丈は平年より長く、茎数は平年よりかなり少ない。生育がかなり早く進んでいることを勘案し、茎数を8月20日の平年値や成熟期の穂数と比較した場合においても、下回っている(表2)。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

6月20日：やや不良

事由：5月下旬は低温で寡照に推移し、苗の活着および生育は遅れ、強風による葉枯れが見られた。6月上旬～中旬は高温で多照に推移し、生育はやや回復したが、草丈は「ふっくりんこ」でやや低く、「ななつぼし」は平年並であった。葉数は「ふっくりんこ」で平年よりやや少なく、「ななつぼし」は平年並であった。茎数は2品種ともに少なかった(表2)。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

5月20日：やや良

事由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬はやや低温で寡照、5月上旬は平年並の気温で寡照、5月中旬はやや高温で寡照であり、全体として平年並の気温で寡照であった。移植は平年並の5月20日に行った。移植時の苗の形質において、草丈は「ふっくりんこ」は平年より短く、「ななつぼし」は長かった。葉数は2品種ともに平年より多く、茎数は「ふっくりんこ」は多く、「ななつぼし」は少なかった。地上部乾物重は2品種ともに平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も2品種ともに平年を上回っていた(表2)。以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表2 水稻の生育

品 種 名 項目 /年次		ふ っ く り ん こ			な な つ ぼ し		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月 日)	4. 23	4. 22	1	4. 23	4. 22	1
	出芽期 (月 日)	4. 28	4. 27	1	4. 28	4. 27	1
	移植期 (月 日)	5. 20	5. 20	0	5. 20	5. 20	0
	幼穂形成期 (月 日)	6. 27	6. 30	▲ 3	6. 25	6. 26	▲ 1
	止葉期 (月 日)	7. 11	7. 16	▲ 5	7. 09	7. 14	▲ 5
	出穂期 (月 日)	7. 16	7. 25	▲ 9	7. 15	7. 23	▲ 8
	成熟期 (月 日)		9. 13			9. 06	
	穂揃日数 (日)	3	6	▲ 3	3	6	▲ 3
	登熟日数 (日)		50			46	
	生育日数 (日)		144			137	
移植時	草丈 (cm)	13. 3	14. 5	▲ 1. 2	16. 0	13. 9	2. 1
	葉数 (枚)	3. 7	3. 4	0. 3	3. 6	3. 4	0. 2
	茎数 (本/個体)	1. 73	1. 30	0. 43	1. 00	1. 11	▲ 0. 11
	地上部乾物重 (g/100本)	3. 22	2. 94	0. 28	3. 64	2. 91	0. 73
	地上部乾物重／草丈	0. 24	0. 20	0. 04	0. 23	0. 21	0. 02
本田生育	草丈 (cm)	6月20日 32. 8	34. 4	▲ 1. 6	35. 8	35. 1	0. 7
		7月20日 88. 9	79. 2	9. 7	88. 9	82. 5	6. 4
		8月20日 92. 0				92. 7	
	葉数 (枚)	6月20日 7. 5	7. 8	▲ 0. 3	7. 7	7. 9	▲ 0. 2
		7月20日 9. 9	10. 5	▲ 0. 6	10. 0	10. 5	▲ 0. 6
		8月20日 10. 6				10. 6	
	止葉葉数 (枚)		10. 6			10. 6	
	茎数 (本/㎡)	6月20日 519	566	▲ 47	443	501	▲ 58
	7月20日 585	792	▲ 207	527	694	▲ 167	
	8月20日 712				647		
成熟期	稈長 (cm)		77. 9			76. 2	
	穂長 (cm)		16. 2			16. 4	
	穂数 (本/㎡)		707			643	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		47. 9			51. 6	
	㎡当粒数 (×1000)		33. 9			33. 2	
	稈実歩合 (%)		93. 7			94. 3	
	㎡当稈実粒数 (×1000)		31. 8			31. 3	
	同上平年比		100			100	
	登熟歩合 (%)		80. 3			78. 8	
	粒摺歩合 (%)		73. 9			76. 7	
	屑米重 (kg/ a)		6. 1			4. 0	
	屑米歩合 (%)		9. 5			6. 2	
	精玄米千粒重 (g)		22. 5			21. 5	
収量	わら重 (kg/ a)		65. 6			65. 8	
	精粒重 (kg/ a)		77. 6			77. 9	
	精玄米重 (kg/ a)		57. 3			59. 7	
	収量平年比 (%)		100			100	
	玄米検査等級 (等)		2上	—		1下	—

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成30年(2018年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/㎡ (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。